

創業者である父との別れは突然やつてきました。

2007年に心筋梗塞で倒れ、意識が戻らないまま1ヶ月後に逝去しました。まだ66歳でした。あまりにも突然のことでのも準備をしておらず、創業時から父を支えていた母が、後を継いで代表を務めることになったのです。そして4年後の2011年、創業40周年を機に私が3代目の代表になりました。

お店の傍らで、両親が休みなく働く姿を幼い時から見ていた私。2人姉妹の長女だったので物心つく頃から父に言われていたこともあり、後を継ぐことは必然の流れでした。とはいえ、心のどこかで親に決められた道から逃げたいという気持ちも消えず、短大卒業後に2年間、地元の企業で働いた後、1年ほど海外で過

ぎました。まだ66歳でした。あまりにも突然のことでのも準備をしておらず、創業時から父を支えていた母が、後を継いで代表を務めることになったのです。そして4年後の2011年、創業40周年を機に私が3代目の代表になりました。

## 突然の別れ

んでいました。

後継者としての覚悟ができたのは、父が亡くなつたからです。父の存在がどれだけ大きかったかを思い知らされながらも以前からの仕入れ先やお客様に不安を与えたくない一心で、経営に取り組みました。プロアの拡大や改装、

## 一 日 一 題

栄光スポーツ社長

三宅 直子

じしたものがありました。父のもとで働くようになり、30代になってからは自らなりに努力は続けてきたつもりです。しかし、職場では何事もトップダウンで進める父と意見がぶつかる日々。自分のやりたいことができずに悩んでいました。

後継者としての覚悟ができたのは、父が亡くなつたからです。父の存在がどれだけ大きかったかを思い知らされながらも以前からの仕入れ先やお客様に不安を与えたくない一心で、経営に取り組みました。プロアの拡大や改装、

じしたものがありました。父のもとで働くようになり、30代になってからは自らなりに努力は続けてきたつもりです。しかし、職場では何事もトップダウンで進める父と意見がぶつかる日々。自分のやりたいことができずに悩んでいました。

生前、父は「レールは敷いてあるのだから、それを進めばいい」と言つていました。その言葉が後継者の私にはとても重くのしかかり、縛られたように感じたものです。でも今は、父が残してくれた取引先やお客様との信頼関係やつながりを受け継いで進めばいい、そんな意味だったのではないかと思えるようになりました。代表となつて10年がたち、父への感謝の気持ちを新たにしています。

2021・12・15

2021・12・15

## 父の奮闘

### 一 日 一 題

栄光スポーツ社長

三宅 直子

栄光スポーツ社長

三宅 直子

代、サッカー関連商品を扱い始めたことも潮目となりました。早期から商品を拡充していたおかげでJリーグ発足時にはさらに弾みがつき、波に乗れたことはその後の事業拡大の一助となりました。

1992年には株式会社化し、1994年に本社ビルの裏にアスリート館を建設。売り場面積を拡大しました。学校中心の外商から小売業へと事業領域を広げたのもこの頃からです。

その後は大型店の出店やインターネット通販の普及もあり、変化に合わせて思い切った方向転換を行ってきました。父の数々の決断は私の経営観に影響を与え、時代の流れを察知すること素早い決断を常に意識するようになりました。

2021・12・8

グの4競技に特化し、本社を含め岡山市内に複数の店舗を開いています。紆余曲折はありましたが、「スポーツをする喜び・感動を一番身近でサポートし続けたい」という創業当時の理念は現在も変わりません。

急逝した父の後を継いで、私が社長

栄光スポーツは今年11月で創業50周年を迎えました。最初は岡山市の南中央町に小さな店舗を構え、父母と父の元同僚の3人でスタート。主に学校向けの需要に対応する町のスポーツ用品店でした。スキーブームやJリーグの発足など人気競技の変遷はあつたものの、その時々の主力商品を変えてお客さまのニーズに対応できる店づくりを中心がけてきました。

1992年には店舗拡大のため現在の大供に移転し、3階建ての本社ビルを建設。学校対象の外商以外に店舗での販売を少しずつ強化し、ネット販売事業部も立ち上げて幅広い顧客を獲得。現在では取り扱う商品を野球・サッカー・バスケットボール・ランニング

## 一 日 一 題

栄光スポーツ社長

三宅 直子



◇筆者紹介（みやけ・なおこ）1989年山陽女子短大卒。服飾メイカーメンテナンス専門学校卒業。岡山県運動具商協同組合副理事長などを歴任。趣味はランニング、旅行で、フルマラソンや100キロ歩行大会に出場した経験も。52歳。

父・中元英雄（故人）が一代で築き上げた栄光スポーツは、1971年に創業しました。父の前職は当時岡山一の規模を誇ったスポーツ用品を扱う会社だったのですが、倒産を受けて、それまでの顧客を引き継ぐ形で新たに店舗を開いたのです。開業した当初は取り扱いブランドが少なく、商品がそろわざ得意先におわりして回ることもしばしば。しかし、誠実な対応と、仕事以外の付き合いにも率先して出かけていく父の人柄もあり、次第に信用を得ていきました。高度成長期の真っただ中とはいえ、岡山県旧落合町（現眞庭市）出身で高校卒業と同時に岡山で就職、その勤務先が倒産しての起業ですから、順風満帆というわけではありませんでした。体が弱かった祖父に代わ

つて小学生の時から働いて家計を支えていた父は、文字通り苦労人です。負けん気の強さは人一倍、この時のハングリー精神が原動力になっていたのでしょうか。

経営者として見習うべき点がたくさんあります。父ですが、特筆すべきは先を急逝した父の後を継いで、私が社長

の座についたのは2011年のことです。カリスマ的な経営者として手腕を振るっていた父でしたから、それなりにプレッシャーはありました。とはいっても前々から着手したかったことは盛りだくさん。やると決めたからには最後までやり切る、そんな精神で突き進ん

で10年がたちました。売り場改装に始まり、新店舗オープン、NPO活動のサポートのほか、個人としてはマラソンやトライアスロンの大会に参加するなど、数々の挑戦を続けてきました。

記念すべき50周年の節目にコラム執筆のお話をいただき、大変うれしく思っています。私のチャレンジの軌跡や経営者としての思いについてつづつまいるま

2021・12・1

栄光スポーツが2015年11月開催の

おかやまマラソンに合わせて2014年

1月にオープンさせたのが、ランニング

専門店「ランプロ」です。ところは岡山県総合グラウンド近くの岡山市北区絵町。まさに大会当日にスタートボードが掲げられる辺りです。店名の由来は「ランニングプロデュース」で、お客様の用途やレベルに合わせたシューズの提案やランニングアイテムの販売はもとより毎週末、平日の夜にもランニングの練習会を開催しています。

立ち上げのきっかけは、私自身がフルマラソンを走るようになったことです。5キロほど走るのが精いっぱいだった私が初めて東京マラソンにチャレンジし、完走できたことは大きな自信となり、それ以来都市型のマラソン大会へ年に2回

ほどのペースで参加するようになります。日頃の練習の成果が試されるとあって、完走の喜びと達成感は何物にも代えられません。何より、大会当日の街の雰囲気と応援に詰めかけた大勢の人々、ランナーから見た沿道の風景を見た時のあのワクワク感。同じ風景

## 「岡山初」のランニング専門店

を岡山でも見られる日が来ることを夢見ていたので、開催が決まった時は本当に嬉しかったです。そして、おかやまマラソンを目指すランナーを増やす環境を作るべく、岡山初のランニング専門店の出店を決めました。

「ランプロ」立ち上げ当初の目標は、お客様がランニングを通して、仲間と

### 一日一題

三宅 直子

栄光スポーツ社長

感動を共有する場の提供でした。レベル別練習会など、市民ランナーが気軽に走れる場をつくることは、私たちにとって初めての試み。手探りでのスタートでしたが、今では「ランプロ」を軸にしたコミュニケーションティーが生まれ、ランナーたちの交流の場になっています。

あいにく昨日の事情により昨年から2年連続で各地のマラソン大会が中止になりました。ランニングを取り巻く環境も大きく変わりました。この変化に対応すべく走るをもとと日々に」を新たなコンセプトに、大会を目指すランナーのサポートはもちろん、健康な体づくりのためのランニングの提案も行うショップとして、現

在、移転オープンに向けて準備をしています。

## 総合店から専門店へ

### 一日一題

三宅 直子 栄光スポーツ社長

開催の決定やサッカー、バスケットのプロチームが発足したことでも追い風になりました。チームの応援を行いながら競技人口を増やすためのイベントや商品アイテムの充実を図っていました。

大型店のように広大な売り場で膨大な商品を扱うことは叶わない代わりに競技を絞り、お客様一人ひとりに合わせた提案のできる競技経験のあるスタッフが常駐し、お客様の相談ごとも対応しています。競技を特化したことで今まで扱っていたなかつたブランドからのオファーもあり、さらなる専門店化が図れました。他店との競争ではなく、私たちならではの売り場づくりと接客でお客様に喜んでいただけたい。そんな思いで営業しています。

2022.1.5

創業以来、地域密着型の総合スポーツ用品店としてご愛顧いただき、当社ですが、時代とともに変わつてゆく市場に合わせて変化を遂げてきました。私が入社してから店舗として一番逆境に立たされた出来事は、全国に店舗を開ける大型スポーツチェーン店が相次いで出店してきたことです。2009年から2011年にかけて、岡山市内を中心部に続々と大型店が進出。あつという間に本店の半径5キロ圏内にひしめき合つ格好になりました。

それまで何度も出店の話が出ていますが、一店舗ができると他の店舗も後に続き、私たちも次の一手を打たねばならなくなりました。

営業面で打撃を受けることは想定していました。

これまで数多くの出会いがありました。が、私の人生に大きく影響しているのが有森裕子さんとの出会いです。今から25年前、1996年のアトランタ五輪のマラソンに出走され、見事銅メダルを獲得された翌日のこと。観戦のため現地にいた私はナイキショップで偶然有森さんを見つけ、興奮して駆け寄り思わず「おめでとうございます! 昨日のレース、感動しました」と、話しかけてしましました。

## 有森裕子さんとの出会い

### 一日一題

三宅 直子

栄光スポーツ社長

同じ岡山出身の方が偉業を達成されたということでも感慨深く、一緒に撮影してもらったその時の写真を見るたびに当時の感動がよみがえります。その後は特に有森さんとの接点がないまま10年余りが過ぎていったのですが、2007年に、有森さんが代表理事を務

めている、スポーツ・教育を軸とした支援を行う認定NPO法人「ハート・オブ・ゴールド」のことを知り、何かお手伝いできることがないかとメールを送ったのがきっかけで、再びお会いすることになりました。カンボジアでの活動を見てほしいとのことでお誘いいただきました。急ぎよ、その年開催のアンコールワット国際ハーフマラソンに参加することになったのです。いざ走つてみると、驚きの連続。はだしで走っている多くのランナーを目の当たりにし、スポーツ文化の遅れや違いを痛感しました。このことは、私たちが毎年ランナーに呼びかけて、履かなくなつた。

たランニングシューズを地元の障がい者陸上連盟を通じてカンボジアのランナーに寄贈する活動につながっています。今年は今月18日にお預かりした315足を有森さんに贈呈しました。そして2006年からカンボジアの小学校体育科教育支援にも力を入れている有森さんの活動のサポートとして、運動用具の確保が難しい現地の小学校にボールを送る活動も行っています。

マラソン同様に情熱を持つてNPO法人の活動にも取り組まれている有森さん。スポーツを通じて国際的な支援活動を行っていることはあまり知られていないかもしれません、少しでも関心を持って賛同し、支援してくれる人や企業が増えたらうれしく思います。

2021.12.22

2年ほど前から新型コロナウイルス感

染拡大防止のため、規模の大きなイベントの中止が続くなどスポーツ界にも影響がありました。そんな世相を反映してか、何かを体験する機会を提供するビジネスはますますニーズが高まっているように感じます。ランニング専門店「ランプロ」のオープン以来、イベント企画・開催を数多く手掛けた当社は、ステップアップを図るべく、昨年12月1日に「おかやま健活スクール」という新たな事業を岡山市北区北長瀬表町の岡山西部総合公園（仮称）管理棟で開始しました。

そこでは日々の健康を維持するためのランニング・ウォーキングを柱とした体験プログラムを用意し、専門的知識を持つ講師がレッスンで指導。「大人の部活」を数多く手掛けた当社は、ステップアップを図るべく、昨年12月1日に「おかやま健活スクール」という新たな事業を岡山市北区北長瀬表町の岡山西部総合公園（仮称）管理棟で開始しました。そこでは日々の健康を維持するためのランニング・ウォーキングを柱とした体験プログラムを用意し、専門的知識を持つ講師がレッスンで指導。「大人の部活」

をキーワードに、仲間と一緒に楽しむ、エクササイズができる場となっています。ターゲットとして想定しているのは、40・50代のミドル層で「ランプロ」の顧客層と重なります。「ランプロ」を立ち上げて良かったことの一つは、練習会からコミュニティーが生まれたことです。私自身も同世代の一員として参加させてもらっていますが、お客様同士がグループをつくって活動を楽しむことができるなど、フットワークの軽さには驚かされるばかりです。同じ趣味を持つ仲間と出会い、共に楽しみ感動を共有する場があることを喜んでもらえたこ

とが、新事業立ち上げのきっかけになりました。

「おかやま健活スクール」はオンラインスクールとしてスタートしていますが、本格始動の今年4月に向けていろいろなプログラムを組んでいます。1月29日には「ランプロ」も絵図町からブランチ岡山北長瀬に移転オープン。新たな拠点でもお客様同士の交流が活発になればうれしいです。最後になりましたが、50周年の節目にコラムの話をいただいたことは、会社と自分の歩みの半世紀を振り返り、新たなチャレンジにも前向きに取り組む良い機会となりました。2カ月間、お付き合いください、ありがとうございました。

## 「おかやま健活スクール」始動

こと。私自身も同世代の一員として参加させてもらっていますが、お客様同士がグループをつくって活動を楽しむことができるなど、フットワークの軽さには驚かされるばかりです。同じ趣味を持つ仲間と出会い、共に楽しみ感動を共有する場があることを喜んでもらえたこ

## 一日一題

栄光スポーツ社長 三宅 直子

2時間分の運動効果があるという内容でしたが、しつかり汗もかけて、終わった後のスッキリ感は今まで味わったことのない感覚でした。そして、短時間で無理なく続けられる高地トレーニングと、気軽に始められるウォーキングを融合させた店舗を作ろうと動き始め、2019年に、女性向けに楽しんでいました。

2022.1.26

## 一日一題

三宅 直子

栄光スポーツ社長 三宅 直子

歩ける環境づくりをコンセプトとした店舗「ファンウォーカー」をオープンしました。

当初からトレーニングを続けていたお客様も多く、「代謝が良くなった」「疲れにくい体になった」という声もいたります。中・上級のアスリート向けては、心肺機能を高めるトレーニングを行い、マラソンのタイムが上がった等、目に見える結果も出ています。

2022.1.19

なトレーニングだと思われがちですが、関東では利用者の7割が運動習慣を目的にされている方や、美容に興味がある女性なのだと。導入のきっかけは、私自身の体験です。標高2500mの低酸素環境の室内で30分、運動器具のトレッドミルの上を歩くだけでも、女性向けに楽しんでいました。

施設に併設の店舗では、トレーニングの効果を高めるためのサプリメントや用具を提案。実際に試してもらつてモノの良さを感じもらえる、他にはない店舗になりました。随時体験会も行っていますので興味のある方はお問い合わせください。

2022.1.12

## 高地トレーニングと店舗融合

## 一日一題

栄光スポーツ社長 三宅 直子

私たちが2014年にランニング専門店「ランプロ」をオープンしてから「モノ」を売るとともに「コト」（体験型のイベント）を売るという新たな業態に興味を持つようになりました。次の展開を考えていた頃、2019年6月にJR北長瀬駅南口の操車場跡地に商業施設「ブランチ岡山北長瀬」が開業することになり、当社も新たに店舗を出すことを決定。「健康」をテーマにしたテナント募集だったので手を挙げたのですが、ランプロ同様「岡山初」にこだわり、店内でトレーニング体験ができる、なつかつ関連する商品を扱う融合店舗を作りたいと考えていました。

新店舗の目玉は、高地トレーニングを体験できる施設です。高地トレーニングと一緒に、トップアスリート向けの特別